

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4150780015
法人名	医療法人 祐愛会
事業所名	グループホーム ゆうあい
訪問調査日	平成20年3月27日
評価確定日	平成20年6月2日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4150780015
法人名	医療法人 祐愛会
事業所名	グループホーム ゆうあい
所在地	鹿島市大字高津原2962-1 (電話)0954-63-5505

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年3月27日	評価確定日	平成20年6月2日

## 【情報提供票より】(平成20年3月10日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 11人, 非常勤 4人, 常勤換算 8人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨及び木造造り 1階建ての1階部分
------	-----------------------

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	ユニットA(38100円)	ユニットB(53100円)	その他の経費(月額)	実費
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	ゆうあいクリニック
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

基本方針に「家庭的な環境と地域住民との交流のもとに、利用者様がその有する能力に応じ、自立した生活を営む事ができるよう支援します。」とある様に、地域と共生しながら、職員と入居者があたかも同じ家で暮らしている雰囲気があるグループホームである。広い敷地内には、車椅子でも散歩できる遊歩道が一周している。入居者は、事故等の心配も無く、散歩の途中で祠にお参りしたり、外の景色を楽しんだりされている。職員の資質向上が、介護の質の向上に直結するとの考えから、職員の育成には特に配慮されている。オーストラリアの認知症ケア研究機関と提携を結び、職員を派遣したり、招待しての交流も行われている。学習療法、習字作品の全国書画展への応募も特徴の一つである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「食事を楽しむことのできる支援」の項目が課題だった。食事の時に、そこに居る職員の一人だけが同じ食卓につき、他の職員は見守りながらの支援であったが、食事支援のあり方が再検討され、職員全員が同じ食卓を囲み、会話を交わしながら食事をするようになった。職員は入居者の状況に応じた席につき、さりげない支援が実践されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で、日頃の介護で自己評価項目が取り組んでいるかを話し合っている。そして、自分たちの介護の現状を振り返り、更に、質の高いサービスを目指している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 年度当初の会議では、運営理念やグループホームの役割等が取り上げられ、地域に対する理解が図られている。それ以後は、行事や介護の様子、地域との連携について等がとりあげられている。その結果、地域からのボランティア(絵手紙、囲碁、踊り等)が多くなった。地域での敬老会への誘いもあっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) まず家族と信頼関係を築くことを第一にしている。ご意見箱への意見は無いが、面会時や家族交流会、運営推進会議で家族から出た意見や相談は、定例会議や場合によっては時間をおかず話し合い、応える様にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) まだ緊密な関係が構築されているとは言いが、地域の自治会に加入する、地域にもっと職員が出て行く、災害対策で地域との連携を強める、地域の方がこれまで以上に訪れてくれる方策等が考えられている。これから地域との結びつきが一層深くなることを期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、職員一人ひとりが介護にあたって大切に思っていることを出し合い、それを基にして、全員で時間をかけて検討を重ね、新たな理念が創られた。地域との連携も意識した理念となっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼の最後に理念を復唱し、常に理念を意識しながら介護にあたっている。また、研修会や日々の介護にあたる中で、理念の具体的な姿を話し合い、その実現に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との結びつきをもっと深めたいとの思いから、地域の行事への参加を申し入れているが、実際に行事等に参加するまでには至っていない。	○	ホームの行事に地域住民の参加を呼びかけたり、地域の自治会に加入して、地域の情報を集めたり、自治会での活動に参加する等を通して、地域との交流が一層深まることを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をサービスの質の確保と向上につなげるためにも、評価項目について職員全員で話し合い、日頃の介護にあたっての指標としている。評価結果についても全職員で再検討し、サービスの質の向上を図っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	理念や行事、介護の実情等の説明や報告に対して、委員から質問、意見、要望等が出され、グループホームへの関心や理解が地域にも深まってきている。話し合われた意見を参考にしての取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に、市役所民生部からの参加はあるが、それ以外には行政の関係担当者等と連携する機会が少ない。	○	実際に市役所に足を運び、行政の関係担当者、運営についての考え方や実情を知ってもらう事によって、一緒に課題解決を図る面も出てくると思われる。行政の担当者とのなお一層の関係づくりと協働関係の継続を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の報告だけでなく、ホームだよりや電話、手紙、家族交流会等で日頃の様子や健康状態を具体的に知らせている。入居者自身が書いた手紙を届けることもある。金銭管理についてもきちんと報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に職員はよく声をかけており、家族も相談しやすい雰囲気を感じている。意見や相談事等は、ご意見箱の内容、苦情対応職員への相談、家族交流会での意見や要望等と合わせて検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	普段、職員間の信頼関係を築く努力がなされている。ユニット間の異動がほとんどで、日常顔なじみの関係でもあるので、入居者に不安を覚えさせる事はほとんど無い。新規採用者の場合は、前もって来てもらい、早く顔なじみになるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画がたてられている。新規・中途採用者研修、ステップアップ研修、リーダー研修とそれぞれの段階にあわせた研修である。また、法人外での研修会にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他のホームと交流があり、情報を交換し、共有している。他のホームと互いに見学したり、研修発表会に参加する事もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に面会し、不安等を受け止め、安心して暮らせることを伝えている。また、お試し利用を勧め、体験入所をして雰囲気がある程度慣れてから入居される方もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に入居者を敬う気持ちを持ち、長い人生を生き抜いてこられた先輩としても接している。入居者から教えてもらう事も多々あり、一緒に学びながら過ごしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面会を含めた諸情報や入居後の言葉やちょっとした行動からも、思いや意向を汲み取る様に努めている。また、定期的に家族や入居者の意向を確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の視点に立った、その人らしく暮らしていくための必要な支援を盛り込んだ介護計画である。家族や本人の意向や希望を基にして家族とも話し合い、関係者全員で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に援助目標の評価を行い、また、状況の変化に応じて、適時、臨機応変に見直しを行っている。その際、本人、家族の意向を十分に組み入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護・医療連携体制加算を受け入れており、本人・家族の状況に応じて通院や送迎を含めて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望によって、馴染みのかかりつけ医での受診や、協力医療機関での受診を支援している。協力医療機関からの往診や健康診断もあり、家族も安心している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護の指針と同意書があり、入居時に家族や医師とよく相談し、方針を確認している。また、状況の変化に応じて話し合いを持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応は、本人の誇りを損なわないように、さりげなく行われている。場合によっては居室で話を聴いたり、外に出た時は、大声で名前を呼ばないようにしている。入居者や家族からの「個人情報保護に関する希望」を文書でも確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、入居者は思い思いに自分の生活リズムで暮らしておられる。朝食をゆっくり摂ったり、居間や居室でゆったりと過ごしておられる。夕食に晩酌をされている方もあり、一人ひとりの暮らしに合わせた支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の状況や意向によって、食事の盛り付けやテーブルを拭いたり、食事の後片付けをされている。食事時には、職員皆が同じ食卓について、さりげなく見守りながら、一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する方は毎日入浴する事が出来る。入浴時間はゆっくりととってもらっている。入浴順や時間帯も出来るだけ、希望を受け入れている。	○	現在はおられないが、午前中や夜間の入浴希望がある場合に備えて、入浴希望実現のために対応を検討する方向である。実現を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴や残存能力を活かして、役割があり、楽しみ事がある。野菜畑の手入れ、草花の世話、月2回の朝食作り、編み物、書道、絵手紙等いろいろあり、職員はそっと見守ったり、一緒に支援したりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩したり、広い敷地内を散策しながら新鮮な空気を吸ったり、買い物に出かけられる方もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害については、職員もよく理解しており、玄関のドアは、日中、何時でも開放してあるので、閉塞感が無い。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画により、防火訓練、避難訓練が行われている。しかし、地域の方への働きかけが行われておらず、ホーム独自および同じ敷地内に隣接する同系列の事業所との共同での訓練だけに終わっている。	○	職員だけの避難誘導の限界を具体的に確認し、運営推進会議の議題に取り上げたり、訓練時に地元消防団や近隣住民の協力を働きかける等の方策の検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で、和食が多い。嚥下や咀嚼力、体調に配慮した食事内容である。食事量の確認もきちんとされている。お湯を準備されており、何時でもお茶が飲める。また、ペットボトルにお茶を入れて飲まれている方もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい室内で、柔らかい光が差し込んでいる。不快な音や、いやな臭気も無く、清潔感がある。居間には、テーブルやソファが置いてあり、中庭の芝生にはベンチや椅子が置いてあり、入居者がゆっくりと過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりの思い思いの居室となっている。ご主人の位牌に毎日、水と花をお供えしておられる方もある。椅子、整理タンス、家族の写真、以前作った手芸品などいろいろ持ってきておられる。すっきりした室内を好まれる方は、最小限の品を置かれている。		